

分析テーマ		バス事業者： 3) 社会実験
分析内容		P&BR、C&BR 検討のための現況分析、需要予測を行う。
分析事例	現状での	需要予測についてはPTデータによる事例あり
	行政サイド事業者サイド	ほとんどなし
分析方法		<p>検討方針</p> <ul style="list-style-type: none"> PTデータでは、1トリップ毎の利用交通手段が把握可能であるため、P&BR（パークアンドバスライド）、C&BR（サイクルアンドバスライド）の利用状況が把握できる。 需要予測については、社会実験の実施より想定されているバスサービス水準の向上によるバス交通需要と、現況の交通特性を活用したバスアクセス手段率（P&BR率、C&BR率）を用いて推計することが考えられる。 <p>分析フロー（例）</p> <pre> graph TD PT[PTデータ] --> CurrentPop[現況人口] PT --> CurrentData[現況データ分析 ・バス利用者の直前、直後の交通手段分析(施設特性、目的、時間帯等)] SocialExp[社会実験によるバスサービス水準の向上] --> TrafficPred[交通需要予測 (4段階推計法など)] TrafficPred --> CurrentPop SocialExp --> FacilityStatus[社会実験で設置するバス停 周辺の施設状況(駐車場、自転車駐輪場等)] CurrentPop --> RegionalTraffic[地域間交通量 鉄道 バス] CurrentData --> RegionalTraffic CurrentData --> FacilityStatus RegionalTraffic --> ZoneBusTraffic[ゾーン別バス交通量] FacilityStatus --> ZoneBusAccessRate[ゾーン別バスアクセス手段構成率] CurrentData --> ZoneBusAccessRate ZoneBusTraffic --> PBR[C&BR、P&BR 需要] ZoneBusAccessRate --> PBR </pre>
必要データ		PTデータ（現況人口、バスアクセス交通手段の特性） 関連データ（バスサービス水準（運行頻度、運賃等）、バス施設整備）
留意事項、方向性等		バス利用での小ゾーン別交通量はデータ精度が十分確保されないため、比率や割合などの傾向値を用いるなどの留意が必要である。
参考資料		-